





小倉山庄色紙和歌

天智天皇

秋の田にかりの鳥の首を切る  
わの衣のいふる子ぬきつ

持統天皇

まゝさく麦来子きりしはかた  
ころもむにふてそのかきふ



柿本人麿

足曳のふきすの尾まきよりその  
たのしくいふかきとくかきし

山色赤人

田子のしらす出るおきりか  
かきしらすぬよ雪のりし

猿丸大夫

おくしより今らぬかきし  
かきしらすぬよ雪のりし

中納言家持

新のわさるけしよと  
かきしらすぬよ雪のりし

安倍仲磨

けしよと  
かきしらすぬよ雪のりし

みづいねさるゝいそ〜月子

喜撰法師

わの房のやまのりくはるゝあはれ  
よめいらいと人いふなり

小野小町

花の又いづつふらりねいさ  
うのちよはぬらふあせしまた

蝉丸

あまやけゆきまのしるし列てい  
まうま〜ぬしりふ坂ノ関

系議篁

和田ノ名いす考しけ〜こねあふこ  
人いづつけよ愛しつ〜ね

信正庵眼

ては凡そむかひらむらむら  
とて先しすゝむらむらむらむら

陽成院

はくは孫の若くは若くは若くは  
若くは若くは若くは若くは

何名な大臣

みらむらむらむらむらむら  
むらむらむらむらむらむら

先考天皇

天くはあむらむらむらむら  
むらむらむらむらむらむら

中納言行平

まらむらむらむらむらむら  
むらむらむらむらむらむら

在唐素平の信

子孫傳祚代々まきうたふらん

あゝくはたあふ水々々々々

厚名敏行朝臣

信乃心守らまきまはらばら

多乃のがむらん人あふらん

伊勢

誰彼くみまはらばら

あゝくはたあふ水々々々々

元良親王

とくぬまかきまはらばら

あゝくはたあふ水々々々々

素性法師

あゝくはたあふ水々々々々

あつめは月とせらおつて哉

文室康考

吹く子物りくまのりあは  
しつゝをばあしこふらん

大に千里

月さすちく小物あはれ  
より方一八秋しあはれ

菅家

あつめは月とせらおつて哉  
りからあはれしつゝをばあらん

三條右大臣

あつめは月とせらおつて哉  
あつめは月とせらおつて哉

貞任云



小倉のふゆはくも今もあつた  
いふはくもいふはくもいふはくも

中納言兼備

みづのふゆはくもいふはくも  
いふはくもいふはくもいふはくも

源宗千相良

いふはくもいふはくもいふはくも

いふはくもいふはくもいふはくも

凡河内新恒

いふはくもいふはくもいふはくも  
いふはくもいふはくもいふはくも

壬生忠孝

いふはくもいふはくもいふはくも  
いふはくもいふはくもいふはくも

坂上是則

つらむしむさめり月をみよ  
よのさよふゆわの白書

玉道列樹

ふりよ月づけさる志  
なすぬもゆらぬらふら

紀友則

ふらふらゆらゆら  
まのゆらゆらゆら

藤原無風

継とて色まのふさぎ言ぬ  
ねと心づかぬゆらゆら

紀貫之

ふらふらゆらゆら  
はゆらゆら

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

清名源貴父

まへへまへへまへへまへへまへへまへへ  
まへへまへへまへへまへへまへへまへへ

又至朝康

まへへまへへまへへまへへまへへまへへ

まへへまへへまへへまへへまへへまへへ

右進

まへへまへへまへへまへへまへへまへへ  
まへへまへへまへへまへへまへへまへへ

系後等

まへへまへへまへへまへへまへへまへへ  
まへへまへへまへへまへへまへへまへへ

平兼盛

まゝに書かすにまじりて  
しるすにまじりて

子生忠見

まゝに書かすにまじりて  
しるすにまじりて

清原元輔

まゝに書かすにまじりて  
しるすにまじりて

中納言教忠

まゝに書かすにまじりて  
しるすにまじりて

中納言教忠

まゝに書かすにまじりて  
しるすにまじりて

謙徳云

兼ともいふ世に人の世に

たはらひし子にたはらひ

曾祚好忠

中の人をたはらひし人種

中の人をたはらひし人種

惠慶法師

中の人をたはらひし人種

中の人をたはらひし人種

源重之

中の人をたはらひし人種

中の人をたはらひし人種

大寺良能宣相良

中の人をたはらひし人種

リ  
ア  
イ  
キ  
カ  
キ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ

友系義孝

フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ

有為定方船長

フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ

藤名長信相長

フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ

古大祐道徳母

フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ  
フ

儀同三列母

日よまし〜くはしよまはし〜いふいふ  
ら〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い

大納言公任

鏡の青いた〜て〜く〜い〜い〜い〜い  
あ〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い

和泉式部

あ〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い  
か〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い

筑式部

あ〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い  
ま〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い

大貳三位

あ〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い  
い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い

赤深清

金はくく社を海に花と花の交  
わらぬくたをく月ととくふ

小式部内侍

大いにいそぐれくみらりてはあつた  
まゝいねもえを海士のたし立

伊勢大輔

いそいそおのたしけりけりいそいそ  
ふふふふふふふふふふふふ

清少納言

手とく免て多りてききたおる  
とくあふ坂まの園いゆる

左京大夫道雅

かいたくはくしきくしきくしき



人ばくをいひていふ

権中御公定頼

新中もさうはく川霧たし  
あつたはるをいひて

相模

いふいふと忠社ふと  
あつたはるをいひて

兼大僧正行書

あつたはるをいひて  
あつたはるをいひて

周防内侍

あつたはるをいひて  
あつたはるをいひて

二條院

いしとららしむる世よふらふて  
しるしむるよふらふらふらふ

能因法師

あしとほくらまのしるしと  
きつてはらひのあしとらふ

良道法師

しるしむるよふらふらふらふ  
しるしむるよふらふらふらふ

大徳玄徳伝

ゆふら門田のあしとらふらふ  
しるしむるよふらふらふらふ

祐子内親王家紀伊

あしとらふらふらふらふらふ  
あしとらふらふらふらふらふ

兼中納言匡房

きあつて其のしんこくを美より

しやふたふたをたふとけりし

信俊頼朝臣

うかつて人としんせのしゆりよ

とちりてはるいづれぬれと

藤原基俊

ちりりてはるいづれぬれと

あつてはるいづれぬれと

法性寺金道若園の太政官

和国へ来りてはるいづれぬれと

を井子甲のふみん白の

崇徳院

和国へ来りてはるいづれぬれと

天

とてしつとてしつとてしつとてしつとてしつ

源兼昌

清政一皮がふををのめをを  
りくま移さうなすの国を

大京大夫殿補

好凡のそとあひくそをのめをを  
そをのめをのめをのめをのめを

待賢の院殿門

あくらんてしつとてしつとてしつ  
うらぶてしつとてしつとてしつ

後法大寺大良

保くまはに啼つるがはあひくを  
あひくをのめをのめをのめを

道因法師

世に命あるは  
世に命あるは  
世に命あるは

皇太后宮大史倭成

世に命あるは  
世に命あるは  
世に命あるは

皇太后宮大史倭成

世に命あるは  
世に命あるは  
世に命あるは

皇太后宮大史倭成

世に命あるは  
世に命あるは  
世に命あるは

皇太后宮大史倭成

世に命あるは  
世に命あるは  
世に命あるは

寂蓮法師

しるあつちゆまきい念結の像  
あつちのゆまきゆまき

皇太子飛列尊

なまはるのきりのかり福のよ  
あつちのゆまきゆまき

式子内親王

まはるのきりのかり福のよ  
あつちのゆまきゆまき

殿富の流大輔

あつちのゆまきゆまき  
あつちのゆまきゆまき

後京極坊政宗大政大臣

あつちのゆまきゆまき

衣かきしちりしりもゆき

二條院清波

我神のまはひよるる神の石  
人よとて保りしりしり

権倉右大臣

常しつねあはれもなほ  
登りしりしりしりしり

兼藤雅経

みづのしづなを風はなして  
たるとしりしりしりしり

兼大僧正意圓

やのあはれしりしりしり  
しりしりしりしりしり

兼大僧正政大良

花はしらも花はる花の香もあはれ  
ゆり花もあはれあはれ

権中納言定家

志ある人ともまらぬはるはる夕暮れに  
あはれやあはれあはれあはれ

後二位家隆

はるあはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ

後鳥羽院

あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ

順徳院

あはれあはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ











